

C—24 和服構成に関する教材研究(第1報)

一ゆき丈の計測方法一

四国女大家政

吉田 花美

戸田 艶子

○渡辺富美子

1. 従来の腕を水平にあげて計るゆき丈の計測方法では、一般に短いものが仕上る傾向にあった。ゆき丈の正しい計測法を調べる目的でこの研究を行った。

2. 和裁書によって、ゆき丈の計測方法を調べた。その方法のうち、手を水平にあげる(A法)、 45° にあげる(B法)、垂らす(C法)の三方法を選び、本学学生120名を被計測者として計測し、その値と最適ゆき丈との関係を検討した。計測器はマルチン式人体計測器を主とした。

3. A, B, C 法による計測値はAが最も短かく、Cが最も長く、その差は平均 8.65 cm であった。C—A間の伸縮は、頸椎点から肩峰に至る間で起る筋肉の伸縮によるものであった。

最適ゆき丈に最も近いのはB法で、A法は短い値を得、C法では長すぎる値を得た。A法と最適ゆき丈の差は、個人による差が大きい。その差は、肩の傾斜角との関係はなく、肩の厚み、胸囲、身長と体重の比など幅、囲り方向に相関がみられた。